

子どものやる気を大事に

今年のシリーズ③

坂井地区
家庭教育支援チーム

No. 031

自分の活躍がみんなの役に立つ喜び知ること
勤勉性が育ちます

子どもが「お手伝いしたい」これは急成長のチャンス



お手伝い習慣

「お手伝いのポイント」がある

- ♥ 簡単なことから始めて、たくさんほめて、できることを増やしましょう。
- ♥ お手伝いができたときには、感謝の一言をそえてほめましょう。
- ♥ 時間と気持ちに余裕があるときに、お手伝いのやり方を丁寧に教えましょう。
- ♥ 出来るようになったことは、任せましょう。うまくできず、自分でやった方が早いと、イライラすることもあると思います。何事も初めからできません。くり返してだんだん上手になります。責任感や自己肯定感などお手伝いの効果と親子の会話の場にもなります。親ができることから始めてみましょう。

以前
ご主人は仕事が忙しいため、母親のゆかりさん一人が子どもたちのことをしっかり見ていかななくてはと必死だったのです。子どもが泣いていても無理やり学校に連れて行くこととしたこともあり、まったく笑えない日常の連続。「このままでは家庭崩壊してしまう。毎日怒ってはかりの自分がイヤだ」と泣いていました。

不登校の子への想い

小学校の間に育てたい勤勉性は、実は何歳からでも育てることが出来ます。

登校を嫌がる子を無理やり学校まで連れていく ゆかりさん



お母さんが変わる

以後
家庭教育の講座を受講してから、今まで自分がどれだけ子どものやる気の芽を摘んでいたのか気づいたというゆかりさん。それまでは長男が自ら何かをやりたいたいと言っても、ゆかりさんは忙しくて余裕がないため、

全部ゆかりさん自身がやっていた。たとえば「自分でオムライズをつくりたい」と言っても、食事は自分がつくるほうが早く、もう献立を決めていたので「ダメ」と断っていたと言います。

これがせつかく芽生えた子どもの自律性や自主性を奪い、そして有能感も人の役に立てるという自己有用感を獲得するチャンスも奪っていたと気づいたので、それからは、「今、これがしたい」という子どもの要望に、その場で応えるようにしました。

また、子どもが「学校に行きたくない」などと気持ちを訴えてきたときは、気持ちを受け止めて、子どもは忙しくて余裕がないため、

わが家の「ヒューマン」日記

昨年度 最優秀賞

私の好きな時間 坂井中学校三年

門 胡花さん

私のお父さんは毎日私たち家族のために働いてくれます。いつも「おかえり」という優しい声で「ただいま」というお父さんですが、よく疲れた顔をしています。そんなお父さんの息抜きになればと思い、お父さんがご飯を食べ終わった後は、妹を入れた三人でUNOをしています。

とっても弱くてまだ一度も勝ったことがないお父さんだけに、笑顔でとても楽しんでくれています。私は好きな時間はたくさんあるけれど、この時間も大大大好きです。



【参考書籍】
子どもの一生を決める「心」の育て方 山下エミリ 著

支援員から

Q どうして、○○ができないの「なぜですぐ怒るの」と子どもの様子が気になる親が増えています。

A 学校で周りのの子を見ることが増えてくるかと思えます。子どもの成長スピードは同じでなく、育つ環境もちがいます。発達障害も境界線はなく線引きは難しいです。何より大切なのは、頑張っても上手くいかないとき「それまでのプロセスを認める」言葉がけです。成長を焦らずに温かい親の心が大事です